

# 追跡レポート

— あの質問のゆくえ —

定例議会で質問された課題が、その後どのように町政に反映されたかを検証します。



情報センターで開催される パソコン教室

## プロバイダー事業の必要性

平成12年に整備した総合情報センターは、5年後に1500名の会員で運営できるとしていましたが、実態は300名ほどの会員です。町から約1400万円の委託料が支払われていますが、町がプロバイダー事業を行う必然性はないと思いますがどうですか。

平成17年3月定例議会

町長答弁

## 実情を検証し取り組む

予想もつかない情報技術関連産業の急激な進展により、当初の収支計画とは異なっていますが、テレワークセンターや情報センター、光ファイバー網の整備は町民の情報知識、利用方法の向上に役立っていると評価します。プロバイダー事業は、実情を検証しながら取り組んでいきます。

どうなった

## 町情報通信基盤の核として活用中

インターネットを通じて、安全安心に情報を受発信するための会員サービスが行われています。平成20年12月現在、267人、45団体の会員の方が利用しています。会員以外にもパソコン操作の指導を行っており、今年度の利用者は80名です。また、まちづくりに関する情報を安全安心にやり取りするための拠点として、さらに町ホームページや議会中継など町の情報システムの管理を行っています。

情報や通信に関する技術は日々進化していきますが、町情報通信基盤の重要な核となるよう今後も活用していきます。

## 議会の様子を見てください

傍聴手続きは簡単、議会事務局（85-6135）へお問い合わせください。

次の定例議会は **3月** です

### ● 議会中継もご覧ください

お手持ちのパソコンでご覧いただけます  
録画でもご覧いただけるようになりました

HP <http://www.town.shirataka.yamagata.jp/gikai/>

議会中継

発行責任者・議長	船山 仁
<b>広報委員</b>	
委員長	青木 彰 榮
副委員長・編集長	関 千鶴子
委員	守谷 丹吾
委員	菅原 隆男
委員	佐藤 京一
印刷	(有)梅津印刷

編集後記

明けましておめでとうございませう。地方議会人といえども、忘れてはならない教えがあります。ひとつは、「民は信なくば立たず」(孔子)その意は、政治に対する国民(町民)の信頼がなければ一日たりとも政治は立ちゆかないということ。もうひとつは、「治にいて乱を忘れず」この意は、平穩無事のなかに危機が内在する。まさに変革の時代を迎えた今、ピンチは好景のなかにあり、そのときにピンチの芽を摘むことの大事さを説いています。逆にいえば危機のなかにこそチャンスがある訳です。

本町では、社会情勢の変化に機敏に対応し、効率的効果的な事業執行を、今こそ行わなければなりません。行政の継続性を踏まえながら、くれぐれも拙速な対応だけは避け、最少の経費で最大の効果を生むような運営(経営)を進めていく最大のチャンスかもしれません。(青木)

